

かがわ里海大学 2023 スキルアップ講座「海ごみリーダー養成講座」

日 時：令和 5 年（2023 年）11 月 5 日（日）9:00～14:30

場 所：高松市男木コミュニティセンター（室内講習）、大井東海岸周辺（現地講習）

講 師：一般社団法人 JEAN 小島 あずさ 氏

受講者数：26 名

11 月 5 日 日曜日、高松市男木島で「海ごみリーダー養成講座」を開催しました。

この講座は、世界的な問題となっている「海洋プラスチックごみ」の削減活動に携わるリーダーを増やし、この問題解決のための普及啓発活動を推進することを目的としています。

午前は、講師から海ごみの現状や問題点について、日本各地や海外の海岸における海ごみの漂着状況、これらの海ごみの多くがどこから発生してどこへ行くのか、海ごみによる生き物への被害などについて写真を用いながら具体的に話がありました。

また、海岸に漂着しているごみの量を簡易に把握する方法の「水辺の散乱ゴミ指標評価手法」とごみの種類と個数を調べる「International Coastal Cleanup=ICC（国際海岸クリーンアップ）」の 2 種類の調査について、その目的と実施方法について説明がありました。



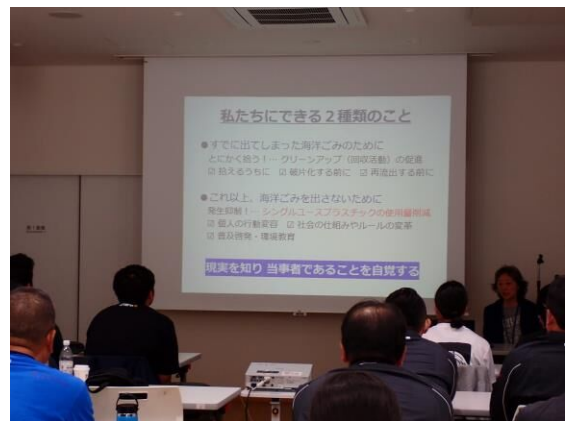
講座の様子、海ごみの現状



海洋ごみの問題点



ICC の説明



海洋ごみを減らすために私たちにできること

午後は、海岸へ行き「水辺の散乱ゴミ指標評価手法」、「ICC（国際海岸クリーンアップ）」の2つの方法について学ぶ現地実習を行いました。

ICC手法の調査ごみ拾いは世界共通の調査方法であり、回収した漂着ごみを品目ごとに分類してその個数を数えます。ごみの個数を自ら調べることで他地域や他国との違いや経年変化を知ることができ、海ごみの実態を知ることにつながります。

講師からは、海ごみ問題は拾うだけでは解決することができない課題であり、海ごみの発生源を断つ必要があることから、海ごみの実態を把握し、考えるきっかけとなるICCが優れていると考えられていることの説明がありました。

調べた中で個数が多かったごみの品目を3つ挙げると、①発泡スチロール破片 625個、②カキ養殖用まめ管 190個、③食品容器 131個となりました。丁寧に細かなごみまで拾って調べてみると、パッと見ただけでは気づかないけれど、多くのごみや色々な種類のプラスチックごみがあることに参加者は気付いているようでした。

受講生からは「海ごみへの理解が深まり、身近なところから自分のできる活動をしていきたいと感じた」「自分がリーダーになって主催したい」などの感想がありました。

今回の受講生は、高校生や大学生、学校の先生など若く意欲的な参加が多くありました。今後、海ごみリーダーとしての活動や活躍が期待されます。



海岸で調査方法を説明



海ごみを回収する



拾ったごみの種類を調べる



集合写真